

ミレニアム開発目標と私達

■ミレニアム開発目標 (MDGs) とは

2000年の国連ミレニアム・サミットで、21世紀の国際社会の目標として国連ミレニアム宣言が採択されました。この国連ミレニアム宣言と1990年代の主要な国際会議等で採択された国際開発目標を統合し、共通の枠組みにまとめたものがミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) です。MDGsでは、2015年までに達成すべき目標が8つのカテゴリーに分かれて設定されています。

MDGsの8つの目標の中で、「目標4：乳幼児死亡の削減」、「目標5：妊産婦の健康改善」、「目標6：HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延防止」の3つに直結した内容となっています。私たちPHJは、これからもMDGsが提示しているグローバルな課題の解決に向け、政府機関や他のNGO、住民との協働はもちろんのこと、会員の皆さまと一緒に、着実に地域での活動と情報発信を進めて参りたいと思っております。(石関)

■ミレニアム開発目標 (MDGs) と ピープルズ・ホープ・ジャパン

このMDGsの実現を目指して、各国政府や国連、NGOをはじめとする国際社会が、様々な取り組みを行なっています。また、最近では「企業の社会的責任」(CSR)でMDGs達成を目標に掲げるケースも増えています。

もちろん私たちPHJの活動も、MDGs達成に沿ったものとなっています。PHJの活動は、

ミレニアム開発目標:MDGs

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| 目標1 極度の貧困と飢餓の撲滅 | 目標5 妊産婦の健康の改善 |
| 目標2 初等教育の完全普及の達成 | 目標6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止 |
| 目標3 ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上 | 目標7 環境の持続可能性の確保 |
| 目標4 乳幼児死亡率の削減 | 目標8 開発のためのグローバル・パートナーシップ推進 |

(参照：外務省ホームページ)

巻頭言 / PHJへの大いなる期待



PHJ運営委員
飯塚 雅樹

日本ヒューレット・パッカード(株)
取締役

私は2007年11月から運営委員を務めさせていただきました。それまではPHJとはほとんど無縁で、せいぜい年末のカレンダー募金が記憶に残っているに過ぎない状態でした。しかし、3ヶ月ごとに開かれる委員会に参加して、カンボジア、インドネシアやタイの日本では想像できないほど衛生環境が悪く文明の利器も無い現地で、支援活動をリードされている皆様からのレポートをお聞きした結果、当然のことだと思いますが、明確な目的を掲げ、計画を立案し、そして活動結果とその成果を把握して、チームのメンバーと共有していくという地道な活動がしっかりと根付いていることに感動いたしました。また、歴史も文化も価値観も異なる人々に対して、思いやりの心を持って啓蒙活動を行うことによ

って、理解を得て、現地の人々が自らの力で走り出すまで粘り強くサポートをされている姿には頭の下がる思いが致しました。そして何よりも現地の皆様が安心して活動が出来るようにバックアップするPHJ本部との一体感が大きな価値であると感じました。

「継続は力なり」との言葉がございしますが、PHJの活動を発展させていくために、今もっとも大事なことは、日本の多くの国民の皆様が理解をいただき支援の輪を広げていくことではないかと感じました。特に昨秋のリーマンショックに端を発した世界同時不況下では、募金活動が大変に難しい事態を迎えていると思います。しかし、今こそPHJの真の価値が評価される絶好のチャンスと捉えて、自信を持って活動を啓蒙していくことによって理解が得られるものと信じます。

運営委員としての1年余りの中でPHJから沢山のことを学ばせていただきました。心から感謝いたします。これからは、良識ある日本人の1人として微力ではございますがPHJの応援をさせていただきたいと思っております。PHJの発展を心からお祈りいたします。

インドネシア・母子保健センター建設支援事業

PHJは2004年から、インドネシアの首都ジャカルタの西約80Kmのバンタン州セラン県の5自治区で、村レベルの保健医療の質を改善・向上させる活動を実施しています。村人への保健啓蒙教育を、現地の保健ボランティアや保健行政と一緒に実施する一方、保健行政局には助産師の増員を強く要求してきました。これまでの活動成果により、村に定住する助産師・医療従事者が倍増し、より安全な出産保育ケースが増加しました。

—	2003年	2008年
助産師による出産	55%	65%
助産師・産婆共助出産	0%	14%
産婆による出産	45%	21%
医療施設での出産	0%	4%

彼女たちが活動する活動拠点は母子保健センターや保健保育センターですが、PHJ活動対象の50村のうちまだ数ヶ所しか整備されていません。この状況を改善するために、PHJは、改善意欲と成果を挙げている村から順次、母子保健セン

ターなどの建設支援を行っています。PHJが関係する施設にはソーラー駆動の深井戸4本(内3本は外務省日本NGO連携無償資金)も導入し、安全な水も確保しています。

PHJは教育活動に重点を置いてはいますが、教育による地域住民の意識に変化が生じた上での活動拠点整備は必要不可欠と考えています。

皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

(伊藤・小林)



カンボジア 村での栄養教育・給食活動

村での保健教育の一環として、今年は栄養教育活動を始めました。対象は、私たちが活動する保健センターの管轄地にある村に住む1歳から5歳の子供たちです。カンボジアでは、多くの子供が栄養不足から、病気になりがちな弱い体になっています。また、健やかな成長にも支障をきたしています。国は、政策としてビタミン剤や鉄剤を保健センターを通して各村に配ったり、生後6ヶ月までの赤ちゃんを母乳で育てるキャンペーン等を大々的に行い、国民の栄養改善に取り組んでいます。カンボジア事務所では、栄養改善のためには



給食活動

日ごろの食生活の改善が必要という認識から、栄養教育・給食活動に取り組んでいます。

活動は、週に2回行われます。村で肉、卵、約8種類の細かく刻んだ野菜を入れた栄養おかゆを調理し、村に住む1歳から5歳の子供たちに配ります。同時に、子供をつれてくる母親や家族を対象として栄養教育を行い、栄養に関する知識を学んでもらいます。母親たちは、幼い子供たちの離乳食として、どういう風に調理を行うのか興味を持って見えています。「同じものは作れないかもしれないけど、子供たちが本当に喜んでたくさん食べているので、家でもおかゆを作って食べさせたいです」というお母さんもいました。

また、当初は外で泥んこになって遊んでいたまま活動に来ていた子が多かったのですが、PHJスタッフが手洗いを指導したところ、家からきちんと手を洗って身支度してくる子供が増えました。衛生観念の普及にもなり、子供に多い下痢を予防することにもつながっています。

(中田)

タイ・HOPE パートナー教育活動報告

2002年以來、ピープルズ・ホープ・タイランド (PHJT) は RICD 病院 (障害児専門の病院) を支援し、現在 42 名の長期療養患者とその家族に対して、治療費あるいは通院費補助だけでなく、健康教育を実施しています。教育にはそれぞれの子供たちの症状に合わせたメンタルヘルス治療、あるいは家族に対しての自立支援のための経済教育 (貯金の奨励等) をも実施しています。

PHJT のスタッフは、本プログラムの長期的有効性を確保するための改善活動に向け、精神科医でもあるサムイ院長 (写真) と緊密な連絡を取り合って成果を上げてきています。

以下は 14 年の精神科医としての経験を持つサムイ院長からの感謝のメッセージです。

「このプログラムは長期療養が必要な患者およびその家族に対し、彼らが必要としていることに

答えることに注力しており、その成果は多大です。その成功の秘訣は、長期にわたる PHJT と RICD 共通認識である、長



期療養患者が幸せになるための健康改善活動への責任感にあります。私たちの強力な連携により、今後もより多くの患者とその家族へ幸福をもたらすことに貢献できることを確信しています。」

さらに、サムイ院長は「将来的には、PHJT と RICD は活動内容を拡大し、タイおよび近隣国の障害児を持つ両親および地域のスタッフを受け入れる、教育センターを設立したい。」とその計画を熱心に語ってくれました。

(教育担当マネージャー：チャクビダ・スパチャン)

ベトナム・AIDS 予防教育「5 月から実施」



UMP 側責任者
(副学長 Dr.Tuan)

昨年 10 月ベトナムホーチミン市の国立医科薬科大学 (UMP) 内に「AIDS 予防教育センター」を設立し、準備を進めてきましたが、いよいよ本年 5 月から UMP 学生に対して教育を始めることになりました。

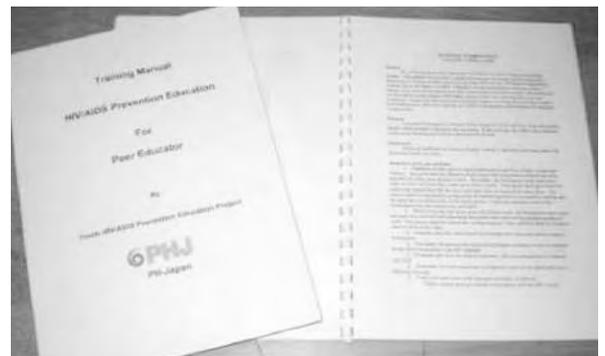
この教育は PHJ タイで 8 年間の実績があり国際的にも評価の高い「ピア教育手法」を技術移転するもので、UMP の強い希望で共同実施するものです。準備は 1 月に実施覚書の締結、2 月にタイパヤップ大学のベトナム留学生の協力による「テキストのベトナム語への翻訳」などが終わり、2 月末に UMP との合同会議で PHJ タイ事務所のジラナン所長らと大谷さん (Project HOPE アジアディレクタ) および、UMP 側責任者の副学長 Dr.Tuan らが協議して実施詳細を決めました。この AIDS 予防教育は UMP 正式カリキュラムとなるので、今後 UMP 役員会にて最終決裁されます。この審議のための全書類はベトナム語で作成され、英語に翻訳され PHJ に渡されます。ベトナムは社会主

義国家なので学内手続きが想像以上に複雑で時間がかかりますが、順調な推移を期待しています。

(須見・蓮見)



UMP での合同協議



ベトナム語化されたテキスト

会員のひろば



「よきパートナーとして」
中岡 敬行
(賛助会員：シスメックス株式会社)

シスメックスとPHJ とのお付き合いはかれこれ10年ほどになります。その中でも3年前にインドネシアに弊社機材を寄贈させていただいた一連の出来事が非常に印象に残っています。きっかけは、インドネシアで頑張っておられる伊藤さんがソーラー付の医療機器を熱望されているのを知ったことでした。開発途上国のニーズにもマッチした「ものづくりの日本」のプレゼンスを高める絶好の機会でもあることから、なんとかそのような現場のご要望にお応えしたいと思いました。

弊社は医療機器については提供することができますが、ネックになったのは安定した電力供給でした。そこで、京セラ(株)の方にご協力を頂き、

太陽光発電で正確な検査結果が出せるかどうか検証を行いました。更に、弊社機材と太陽光発電装置を実際にどのように据付するか等々、課題は山積でしたが、ネグロス電工(株)の方が自ら、現地へ行って設置してくださり、無事に伊藤さんの願いを叶えることができました。

このように多くの方の協力で設置した機材は、今も毎月20名程度の主に妊産婦や母親の血液検査に使用されています。検査をすることで妊産婦や母親の健康も年々改善されつつあるとのことで、非常に嬉しく思っています。

このような現場の方々との交流を通じて、「NPOと企業は単に資金供与だけの関係ではなく、固有の強みを活かし、相互に支援し合うことができる関係である。」という理解を深めた次第です。

今後も、引き続きPHJとの良いパートナーシップを築き、弊社が出来ることがあればご協力していきたいと思っています。

四川省地震災害復興支援のその後

中国四川省で大地震が発生してから早1年近く経ちます(5月12日発生)。現地では、遠地で入院していた子供たちも全て帰宅し、通学も始まっています。しかし四川省唯一の子供病院である成都市児童医療センターでさえメンタルケアのノウハウが不足しています。

皆様からの募金はこの病院の看護師を上海児童医療センターに派遣してメンタルケアの研修をさせたり、特製マニュアルやDVDを上海と共同製作するのに使われています(順調に進行中)。



メンタルケア講習会(上海児童医療センターで)



重症児のリハビリ

08年、年末カレンダー募金のお礼

昨年も年末カレンダー募金に多くの皆様からご協力頂き誠に有難うございました。募金額はカレンダー募金2,532,838円、この他に職場等でまとめて下さった年末募金259,902円とで合計2,792,740円となりました。

カレンダーの絵は全てPHJが支援事業で関係した児童の作品です。今回はそのお絵描き風景等も加えました。09年カレンダーをお楽しみいただければ誠にうれしく存じます。

皆様からの募金は各地の事業継続のため大切にに使わせていただきます。

(大河内)

発行：ピープルス・ホープ・ジャパン / 発行責任者：須見 彰 / 編集人：藤田 憲次郎 / 発行日：2009年4月1日
〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL：0422-52-5507 FAX：0422-52-7035
E-mail：info@ph-japan.org ホームページ：<http://www.ph-japan.org>

今日からあなたも地球人 個人会員・ホープパートナー会員募集中!

FAX 0422-52-7035

ピープルス・ホープ・ジャパン 行

個人会員申込書 会費3,000円/年・口× 口 = 円/年

ホープパートナー会員申込書 会費3,000円/月

の中にチェック☑を入れて下さい。

ふりがな

氏名

電話

自宅住所 〒

勤務先

電話

お申込みは、郵送、FAX、ホームページなど、どのような方法でも、結構です。後程送金方法を連絡させていただきます。